

# 「政策活動費」見えぬ使途

国民によるチェックと公正な政治活動を担保するための「政治資金収支報告書」で、使い道などがわからず不透明なのが、政党からの政治家個人に渡る「政策活動費」などの支出だ。与野党の別なく活用されてしまい、専門家のから見直しを求める声が上がる。

## 自民、二階氏に6億円

### 政治資金報告書

26日に公開された自民党政治資金収支報告書によると、2020年は党本部から12人の議員に計1億8330万円が支出された。うち6億3020万円が二階幹事長（当時）に渡った。1年間、ほぼ毎月数千万円単位の入金があり、6月には1日で1億7千万円以上を受け取っていた。

第2次安倍政権以降の推移を見ると、自民党本部が支出する政策活動費は年にようじめりつ差があるものの10億円台で推移。ピークだった17年には19億円を超えた。うち約13億8千万円を幹事長の二階氏が受け取った。

2020年の国会議員ら個人への「政策活動費」などの支出額。公明党、国民民主党、共産党、NHK党の該当はなかった。肩書きは当時



政策活動費 うち二階幹事長に  
9億8330万円→6億3020万円

立憲民主党

福山幹事長へ  
3千万円→全額

日本維新の会

うち馬場幹事長に  
4497万円→4280万円

社民党

うち福島党首に  
1480万円→310万円

れいわ新選組

山本代表へ  
240万円→全額

神奈川大学の大川千寿教授（政治学）の話

自民党幹事長にわたる国體の力では、権力の大さを感じさせるが、具体的な用途は分からぬ。カネがモノを買うと受け止められて仕方がない。こうした不透明な資金の存在は時代遅れだ。「政策活動費」と銘打っている以上、本当に政策の充実に役立っているのかを国民がチエックできるよう、使い道を検証できる仕組みづくりが必要だ。

## 維新代表、全面公開には否定的

政策活動費を使っているのは自民党だけではない。「身を切る改革」を訴



政策活動費を使っているのは自民党だけではない。「身を切る改革」を訴

え、政治資金の透明性を求めてきた日本維新の会も昨年、計4497万円を支出していた。政治団体「日本維新の会全国会議員団」の報告書によると、受け取っていたのは馬場伸幸幹事長、横田均政調会長、遠藤敬国会対策委員長の幹部ら。19年にも馬場氏らに5865万円を支出していた。維新的創設者で元大阪市長の橋下徹氏は今月、ツイッターで繰り返し用途を明らかにするよう求めた。「非公開で法にのつとて適切に処理している」という態度は維新ではない。古い永田町住人そのものだ」と指摘。維新が領収書や用途の報告が

不要な文書通信交通滞在費（文通費）の改革を打ち出したところ、「使ふ道を立てかる以上」「使ふ道を立てかる以上」と強調して公開すべきだ」と強調してい。

これに対し、大阪府知事の西村洋文副代表は17日、「吉村洋文副代表は17日、記者団に「金額を差し引いてはいけない。だって官房機密費だからある」としながらも、「維新らしいくないお金にも見える」と述べた。

大阪市長の松井一郎代表は同日、選舉に向けて人材を発掘する際、飲食を伴う情報収集を行う必要があると説明。「それを全部自腹でやれと言つたら、執行部のなり手はない」「全部が全部オーブンというわけにはいかん」と述べた。また立憲民主党の報告書によると、福山幹事長に3千万円が支出され、動費」の名目で福島瑞穂党員ら4人に1480万円を支出していた。

ていた。幹事長の受け取り分は全体の6～8割を占めており、その影響力の源泉となつているようだ。政策活動費は政党から政治家個人に渡る資金。政治資金収支報告書では、政治団体の組織活動のための経費である「組織活動費」に分類される。政党から資金提供を受けた場合、政治団体は收支報告書の提出義務があるが、政治家個人には

適用されない。用途を確認するすべはない、最終的な用途は幹事長が差配し、使金の流れを第三者が検証できない不透明さから、政治資金の透明化の抜け穴と批判も招いてきた。自民党が政権に復帰して以来だけ巨額の資金は一体何にあてられるのか。自民党幹事長は「これまでも15億円以上どおり。支出先とは選対委員長

の名前もあり、選舉対策に使われている様子もうかがえる。国民党幹事長室は朝日新聞の取材に「党に代わって党勢拡大や政策立案、調査研究を行つたのに、党役職者の職責に応じて支出している」と文面で回答した。

複数の党関係者によると、支出は幹事長が差配し、使金の流れを第三者が検証できない不透明さから、政治資金の透明化の抜け穴と批判も招いてきた。自民党幹事長は「これまでも15億円以上どおり。支出先とは選対委員長

の名前もあり、選舉対策に使われている様子もうかがえる。国民党幹事長室は朝日新聞の取材に「党に代わって党勢拡大や政策立案、調査研究を行つたのに、党役職者の職責に応じて支出している」と文面で回答した。

複数の党関係者によると、支出は幹事長が差配し、使金の流れを第三者が検証できない不透明さから、政治資金の透明化の抜け穴と批判も招いてきた。自民党幹事長は「これまでも15億円以上どおり。支出先とは選対委員長